

博士論文（要約）

論文題目 今昔物語集研究

氏名 川上 知里

目次

序章	1
第一部 『今昔物語集』の内的世界	
第一章 各話冒頭部の意義——構成と表現の連動性——	9
第二章 非仏法部の形成——卷十を基点として——	27
第三章 恐怖表現の意義——卷九の生成理由をめぐって——	48
第四章 歴史叙述からの解放——卷三十を手がかりに——	64
第五章 事実への執着——信憑性確保の手法と理由——	81
第六章 読者意識の存在——末法思想と合理的思考——	100
第二部 『今昔物語集』の生成とその周辺	
第一章 『世継物語』論——説話化の営み——	120
第二章 唱導資料と説話集——説話引用の在り方をめぐって——	138
第三章 『打聞集』論——説話集としての可能性——	158
付論 金沢文庫本『仏教説話集』論	175
第四章 『長谷寺験記』論——虚構の靈験記・歴史書——	187
終章 『今昔物語集』の世界形成	206
依拠本文一覧	212
論文初出一覧	215

本文

本博士論文の全文は出版契約が結ばれており、川上知里『今昔物語集の世界と背景（仮）』（花鳥社）として、二〇二二年二月に出版予定のため、全文公表できません。

参考文献一覧

本文に用いた参考文献は、本文中、節末等に示したため、省略する。引用文献は以下のものに拠り、異なる場合は本文中に注で示した。なお、私意により一部表記を改め、私に傍線や波線を付した箇所がある。

- 『打聞集』、東辻保和編『打聞集の研究と総索引 影印篇』（清文堂出版、一九八一年）。
- 『宇治拾遺物語』、新日本古典文学大系。
- 『栄花物語』、松村博司『栄花物語の研究 校異篇』（風間書房、一九八五年～一九九〇年）。
- 『大鏡』、新編日本古典文学全集。
- 『覚禅抄』、大日本仏教全書。
- 『覚鑿上人伝法会谈義打聞集』、興教大師全集。
- 『閑居友』、新日本古典文学大系。
- 『教行信証』、日本思想大系。
- 『愚管抄』、日本古典文学大系。
- 『華嚴経伝記』、大正新脩大蔵経。
- 『原中最秘抄』、源氏物語大成。
- 『孝子伝』、幼学の会編『孝子伝注解』（汲古書院、二〇〇三年）。
- 『江談抄』、新日本古典文学大系。
- 『江談抄』（神田家本）、江談抄研究会編『古本系江談抄注解』（武蔵野書院、一九七八年）。
- 『高野春秋編年輯録』、大日本仏教全書。
- 『後拾遺和歌集』、新日本古典文学大系。
- 『古本説話集』、新日本古典文学大系。
- 『権記』、増補史料大成。
- 『今昔物語集』、新日本古典文学大系。
- 『今昔物語集』（鈴鹿本）、安田章編『鈴鹿本今昔物語集 影印と考証』（京都大学学術出版会、一九九七年）。
- 『言泉集』、永井義憲・清水有聖編『安居院唱導集』上卷（角川書店、一九七二年）。
- 『三国伝灯記』、横内裕人「東大寺図書館蔵覚憲撰『三国伝灯記』―解題・影印・翻刻―」（『日本中世の仏教と東アジア』塙書房、二〇〇八年）。

『三宝感応要略録』、尊経閣善本影印集成。

『慈恵大僧正伝』、群書類従。

『地藏菩薩靈驗記』(改編本)、榎本千賀他編著『一四卷本地蔵菩薩靈驗記』

(三弥井書店、二〇〇二年)。

『拾遺往生伝』、日本思想体系。

『拾遺和歌集』、新日本古典文学大系。

『衆経要集金蔵論』、宮井里佳・本井牧子編著『金蔵論 本文と研究』

(臨川書店、二〇一一年)。

『諸経要集』、大正新脩大蔵経。

『諸事表白』(日光輪王寺蔵)、続天台宗全書。

『真言伝』、大日本仏教全書。

『是害房絵巻』(曼殊院本)、新修日本絵巻物全集。

『千載和歌集』、新日本古典文学大系。

『続本朝往生伝』、日本思想体系。

『大智度論』、大正新脩大蔵経。

『大日本国法華経験記』、日本思想大系。

『注好選』、新日本古典文学大系。

『中右記』、増補史料大成。

『澄憲作文大体』、小峯和明(翻)安居院唱導資料纂輯(二)

(『調査研究報告』13、一九九二年三月)。

『殿暦』、大日本古記録。

『東宝記』、続々群書類従。

『俊頼髓脳』、冷泉家時雨亭叢書。

『二中歴』、尊経閣善本影印集成。

『日本往生極楽記』、日本思想大系。

『日本靈異記』、新日本古典文学大系。

『百因縁集』(名大本)、中根千絵『今昔物語集の表現と背景』(三弥井書店、二〇〇〇年)。

『豊山伝通記』、大日本仏教全書。

『扶桑略記』、新訂増補国史大系。

「弁曉說草」、神奈川県立金沢文庫編『称名寺聖教尊勝院弁曉說草 翻刻と解題』

(勉誠出版、二〇一三年)。

『法苑珠林』、大正新脩大藏經。

『法則集』、永井義憲・清水宥聖編『安居院唱導集』上卷(角川書店、一九七二年)。

『宝物集』(一卷本)、月本直子・月本雅幸編『宮内廳書陵部藏本寶物集總索引』

(汲古書院、一九九三年)。

『法華伝記』、大正新脩大藏經。

『法華百座聞書抄』、古文學秘籍叢刊複製本。

『本朝新修往生伝』、日本思想体系。

『本朝世紀』、新訂増補国史大系。

『摩訶止観』、岩波文庫。

『枕草子』、新編日本古典文学全集。

『末法燈明記』、伝教大師全集。

『三井往生伝』、続天台宗全書。

『妙法蓮華経』、佛典講座。

『無名草子』、新編日本古典文学全集。

『冥報記』、説話研究会編『冥報記の研究』(勉誠出版、一九九九年)。

『大和物語』、新編日本古典文学全集。

『世継物語』、無刊記版本(東京大学図書館蔵南葵文庫本)。

『梁塵秘抄』、新日本古典文学大系。

論文の内容の要旨

本学位論文は、院政期に誕生したと考えられる日本文学史上最大の説話集、『今昔物語集』を様々な角度から考察し、作品の構造や生成の環境、実態を解き明かすものである。

第一部では『今昔物語集』（以下『今昔』と略す）内部の世界観に焦点を当て、全体構成、説話の語り方、表現を総合的に考察した。説話集を分析するに際しては、「集」としてのまとまり、個々に独立した説話、説話内の表現といった様々な観点からのアプローチが必要となる。森正人「今昔物語集の言語行為再説―編纂・説話・表現」（『場の物語論』若草書房、二〇一二年）が提唱するように、説話集分析とは、「編纂行為」「説話行為」「表現行為」という三つの言語行為の仕組みと、三者相互の関係を明らかにすることである。では、『今昔』という説話集では、この三つの言語行為がどのように影響し合い、また反発し合っているのか。その具体的様相を明らかにすることが、体系的に見えながら内部に様々な矛盾をはらみ、その正体を掴みきれない『今昔』という作品の全体像を説明する一助となるはずである。

そこで、まず『今昔』の構成の大枠を解明するため、第一章・第二章を置いた。第一章では各話の冒頭部分を取り上げ、言語行為の関係性を検討した。各話の冒頭部は典拠からの改変が顕著に見られ、一説話内にて大きな意味を付与されている部分と考えられるためである。そこで、『今昔』全話の冒頭部を表現行為・説話行為・編纂行為との関係から分析し、冒頭部に与えられた役割を考えた。特に冒頭部の微細な表現が編纂行為と明確に連動している実態を中心に明らかにすることで、構成の大枠を考える上で冒頭部が重要な手がかりとなることを論じたものである。

第二章では非仏法部に範囲を限定し、非仏法部の構成を各話の表現行為や説話行為と関連させながら把握することに努めた。まず、震旦非仏法部にあたる巻十「震旦付国史」を取り上げ、その構成意図を考えた。そして、その成果を天竺部や本朝部に敷衍し、考察することで、『今昔』三国における非仏法部の構成を明らかにしたものである。

続いて、そのように仏法や歴史という大枠を持ち、整然としているように見える『今昔』を、内側から突き崩す存在を明らかにするため、第三章・第四章を置いた。一見体系的であるにも関わらず、内に多くの矛盾や齟齬を抱える『今昔』において、何がその根本的な原因となっているのかを明らかにするためである。第三章では、編纂方針の大綱を揺るが

す存在として、「恐怖」への注視を取り上げた。『今昔』内に大量に見出すことができる恐怖表現は優れた描写力を持ち、『今昔』の大きな魅力として従来注目されてきた。しかし、この「恐怖」に惹かれ続ける姿勢が、『今昔』の編纂行為や説話行為に大きな影響を与えている点を明らかにした。そして、その成果を手がかりに、編纂意図が掴みにくい巻九「震旦付孝養」の生成過程を論じたものである。

また、整然とした『今昔』の構成から逸脱する存在として最も特徴的であるのは、巻二十六〜三十の五巻であろう。この五巻の意味付けが成し遂げられて初めて、『今昔』の全体像は解き明かされると思われる。そこで、第四章では巻三十「本朝付雑事」を取り上げ、その存在意義を明らかにした。巻三十は男女関係をテーマに説話が収集された巻であり、『今昔』全巻の中でも従来非常に評価の低い巻であった。このような内容の巻が、なぜ『今昔』世界に用意されなければならなかったのかを考察し、『今昔』が体系的な構成を崩しながら生成していく様を追ったものである。

このように、第四章までは編者の事情、作り手としての意識を中心として、『今昔』の内的世界を考えた。しかし、説話文学とは語り手（書き手）と聞き手（読み手）の相関係の上に成立する文学営為だと考えられる。そして、確かに『今昔』においても読む対象を強く意識した語りが存在している。しかし、この「読者」という観点は、従来の『今昔』研究においては全くと言ってよいほど顧みられなかった。そこで、この読み手への意識という観点から『今昔』という作品を問い直す試みとして、第五章・第六章を置いた。

まず第五章では、読者に疑われることを避けるため、多種多様な手段を以て説話内に信憑性を付与したその手法と理由を、主に仏法部に限定して考えた。仏法霊験に疑いのまなざしを向ける人々を『今昔』が読者として想定している実態と、そのような読者を設定した理由を、説話内部の表現を中心に考察したものである。

続いて第六章では考察の対象を非仏法部に広げ、非仏法部を含めた『今昔』全体がどのような読者を設定しているのかを、非仏法部における信憑性付与の操作の実態と合わせて考察した。そして、読者として設定された人物の特徴を、『今昔』と同時代の作品の言説を手がかりとして、時代の流れの中で明らかにした。『今昔』という作品が生成するにあたり、読者という作品外部からの影響が非常に大きかったことを論じたものである。

このように、第一部では表現行為・説話行為・編纂行為といった複数の観点から、『今昔』という作品に対して有機的な構造分析を行い、『今昔』の内的世界がどのように形成されているかを総括的に捉えることを目指した。

しかし、『今昔』という作品の生成は作品内部からだけでは到底解明できない。説話の本質がその伝承性にある以上、説話集の前提には、大量かつ多種多様な説話的言説が存在する。説話集の生成は、様々なジャンルの作品との関係性の中で捉えなければならぬ。とりわけ『今昔』は、仏教説話、歴史説話、文化的説話、世俗説話といった多様な説話を内包するため、その生成に関連する作品は膨大な数となるが、そのような多種多様な作品との接点を認識することが、『今昔』が生み出された場を正しく捉えることに繋がるだろう。

そこで、第二部では、『今昔』と深い関わりを持つ作品や、『今昔』の文体や内容の形成を考える手がかりとなる作品を対象とし、個別に検討を行った。『今昔』生成と密接に関連する作品の性質を明らかにすることで、それと比した時、より明確に『今昔』の世界が捉えられると考えるためである。

まず第一章では、『今昔』と多数の同文的同話を抱え、『今昔』巻二十四と世界観が酷似する『世継物語』を取り上げ、作品生成の営みを考察した。『世継物語』は『今昔』や『古本説話集』、『宇治拾遺物語』と同じく『宇治大納言物語』系統の作品であるが、中でも一際、依拠資料を忠実に踏襲する性格を有しており、歌集から説話へ、物語から説話へとジャンルを超えて叙述が変容していくその過程を、具体的にを見せてくれる作品である。それ故に、『今昔』の構成や表現を考える大きな手がかりとなる。

続いて、第二章では唱導資料を取り上げた。『今昔』を含む仏教説話集は唱導と密接な関係を持って誕生・発展したと言われるが、その具体的な関連は資料の制約もあって明らかではなかった。しかし、近年寺院における悉皆調査等により、多くの唱導資料が発掘され始めている。その成果を活用し、計六種の唱導資料を対象として、その中にどのような形で説話が引用されているのか、その引用は説話集とどのように関わり、またどのように異なるのかを調査したものである。

第二章で得られた、唱導資料における説話引用の在り方の特徴を、『打聞集』の作品分析に転用したものが第三章である。『打聞集』は『今昔』と同時代に誕生した小作品であり、また『今昔』との同文的同話を多く有し、その成立圏の近さが注目される存在である。しかし、一方で『打聞集』は説法を筆録したかのような特徴を持ち、唱導資料として認識されてきた経緯を持つ。そこで、果たして『打聞集』は唱導資料なのかという問題を、他の唱導資料における説話引用と比較することで考察した。『今昔』と非常に近似した作品であるが故に、『打聞集』の性質を明らかにすることは、『今昔』生成を解明する一助と

なるものである。

なお、第三章の付論として金沢文庫本『仏教説話集』を取り上げた。この金沢文庫本『仏教説話集』も『打聞集』と同様に、説話集としても唱導資料としても異質な性質を持つが故に、作品把握が難航している作品である。そこで、他の唱導資料における説話引用方法と比較検討しながら、作品の実態を解明し、その本質を明らかにした。

また、第四章では長谷観音の靈驗譚を集成した『長谷寺験記』を取り上げた。靈驗記は『今昔』と同じく仏教説話集として括られることが多いが、多様な靈驗譚を収める『今昔』とは異なり、固有の寺に限定された靈驗譚を集成するということは、どのような営みであったのかを考えた。具体的には作品内の言語行為を総合的に分析し、『長谷寺験記』が一体何を目的として、どのような手法で生み出されたのかを論じたものである。『今昔』と複数の同話を抱え、『今昔』同様に唱導との関係が取り沙汰される作品であるからこそ、その生成理由の解明は『今昔』研究に大きく寄与するものと思われる。

以上のように、本論文は『今昔』本文の分析という作品内部からの考察と、関連作品の分析という作品外部からの考察を合わせることによって、院政期に誕生した巨大な説話集の解明を試みたものである。